

『どこかで水がながれだす』

『啓蟄』<冬ごもりの虫はいでる>の意と広辞林にありました。二十四節気の一で、太陽暦では、3月6日頃に当たるそうです。その冬ごもりの虫が穴から出ようとし始めたら、朝から冷たい雨、さらに途中から、みぞれになり、次第に雪になってきました。穴から出始めた蛙たちもあわてて土の中にもぐって行ったことでしょう。桃の葉もせっかくふくらんできたというのに・・・、先月の“やすらぎ”では、岩代先生の子育てと音楽談義、深みのある話をユーモアたっぷりに聞かせてくださいました。先生の作曲になる歌を数曲、みんなで歌い覚えましたが、いずれも心に響く素晴らしい曲ですね。先生の人柄からにじみでたようなメロディで覚えやすいものでした。「・・・博子さんの歌も素敵でした・・・」年齢？不詳のYさん、アンケートでの感想ありがとうございました。「ちぎれ千島に雲が飛ぶ」《森繁久弥作詞、岩代浩一作曲》は佐々木襄さんの歌声で、しみじみと心にしみとおるものがありました。“やすらぎコンサート”は、決して政治的発言をするものではありませんが、北方領土（千島）の返還を願う気持ちが切々と伝わってくるのでした。

さて150回目の今日のゲストは、県下でも一番の歴史を持つ混声合唱団「横浜木曜会」です。来月（4月）末には定期演奏会を控えて今回の演奏、これも楽しみですね。私たちの「やすらぎコンサート混声合唱団」と「くらべものにはなりません」参考になると思います。私たちも明るく楽しく春の歌を、精一杯 歌いましょう。  
(N. N記)

プログラム

☆いよいよ合唱にチャレンジ☆

指導：松崎陽治、ピアノ：増本博子

季節の歌							二部合唱				
1)	春が来た	55	69	5)	蝶々	58	72	8)	花	22	22
2)	春の小川	57	71	6)	早春賦	39	39	9)	花の街	48	48
3)	朧月夜	63	77	7)	歌声ひびく	368	400	10)	野なかの薔薇	274	294
4)	チューリップ	60	74					11)			

《休憩 10分》

☆今月のゲスト☆

☆ 混声合唱 横浜木曜会 ☆

<プロフィール>

横浜木曜会は昭和14年（1939年）、故山根一夫氏が中心に横浜市 YMCA グリークラブの有志によって、横浜市西区の戸部教会で創設されました。70 猶予年の歴史を持ち、横浜で活動を続けています。

・創設の精神

- 1)宗教音楽を基軸に、心のともなう音楽（合唱）をつくる（歌う）
- 2)音楽（合唱）の技術レベル向上のため、絶えざる努力をする
- 3)音楽（合唱）をとおして、隣人愛を育み社会奉仕を実践する

・名称の由来 合唱を楽しみながら、合唱を通して社会に 奉仕する会として「横浜木曜会」と命名されました

<曲目>

「箱根八里」、 「中国地方の子守歌」、 「椰子の実」  
 ヴィヴァルディ—「グロリアミサ」より フォーレ — 「レクエム」より

(皆さんといっしょに) 《 さよならは言わずに行こう! 》

<事務局から>

- ・ 愛唱名歌 受付にてお求め頂けます(¥1000/冊)。お忘れの方はレンタルをご利用ください(¥1200 / 返却時 ¥1000 返金)
- ・ 皆さんのご感想をアンケートにお書きください、今後の例会に反映させて頂きます。(鉛筆はお帰りに 返却箱に!)
- ・ 今までの例会の写真、ご希望の方は受付にてお求めください。(¥200 / 枚)
- ・ やすらぎコンサートのHP <http://yasuragi1998.web.fc2.com/>